



# えが お

令和8年2月4日発行  
第10号

都立城東特別支援学校長  
秋本 友美

## 『共に生きる』は子どもたちから始まる

校長 秋本 友美

「私はスキップが苦手だけど、2人が上手にやっていたので、すごいと思った。2人のスキップを見て、私も元気になった。」 【交流学習後の江東区立第四大島小学校の児童】

「手話（サイン）で話せないから、どうやって話せばいいのかな？と最初思いました。」「授業の時にピクトグラムを使って伝えているんだ！と知りました。」

【特別支援学校教員による出前授業を受け、交流学習が始まる前の児童たち】

「一緒にモルックができて楽しかったです。またやりたいな。」

【交流学習後の江東区立砂町中学校の生徒】

御紹介したのは、城東特支の児童・生徒たちとの様々な関わりの中で届いた、地域に在住する児童・生徒たちのほんの一部の声です。

「共生社会の実現」の仕掛け（「副籍制度・交流及び共同学習」等）は大人【行政・学校・地域】かもしれませんが、**地域の子供たちが受けた影響、心の動き**【上述の声】が真髄です。

ともすれば、行き違いや相違等、良い影響だけではないのも事実です。でもこれは、日常でも、私たち大人同士でもあり得ることです。

東京都特別支援教育推進計画（第二期）では、「障害のある人々が何らかの形で社会とつながっており、その生きる姿が周囲の人々に様々な形で良い影響を及ぼしている状況を含め、「貢献」と表現している。」と示されています。

【上述の声】は、まさに「地域・社会に貢献」していることの体現です。そして、障害のある子供たちは、決して「受け身」だけではありません。

①**能動的な学習活動【裏面】**に取り組む姿等を通して、**子供たち自身が「共生社会の実現」につながる取組及び発信の一翼を担う存在であること。**

②①のプロセス・経験を経て、社会に参加・貢献できる人になっていくこと。

「相手の状況を知る、（相手の）思いを共有・想像する」姿が、上述の声から見えるのは、**障害のあるなし**ではなく、「相手を思いやる」「相手を尊重する」基盤があるからです。

「**お互いを大切にする・関わり合い（を醸成する取組）【裏面】**から」→「**心の動き**が生まれる」そして、砂町中学校生徒からの声のように「**自分も楽しい**」から「**相手と共にこのことをしたい**」との「**自然の流れ**」が、「共に生きる」根幹と私は考えます。

さらに推進力になるのは、「子供たちの姿（主体的な学習活動）を**地域**で展開していくこと」です。【裏面】の「一人通学の姿」「**一人通学につながる過程の取組・姿**」等、**社会というフィールドで**、（子供は）自信をつけ、（地域は）見守り・存在意義を通じて「共感的・協調的な関係性の構築」につながっていく・・・

城東特別支援学校は、本校で学ぶ児童・生徒たちの姿を地域社会が実感できる学校でありたいと思います。

## 一人一人が大切にされる学校であるために

主幹教諭 陸川 香都

本校の応援団である学校運営連絡協議会や学校サポートチームの委員から、本校をよりよくするために、「教員の子供へ向き合う姿勢の大切さ」「自然体でのコミュニケーションが図れる雰囲気作り」「ルール大切さ」などの御助言をいただきました。

子供や教職員が気持ち良く、お互いを思いやって過ごすために大切なキーワードとして、挨拶やルール、健康、友達との関わりなどをテーマとした「毎月の**人権目標**」を設定しています。

また「**お互いを大切にするアンケート**」は、より深いコミュニケーションを図れるツールの一つとして年に3回実施しています。今、子供たちが思っていることや感じていることを知ることで、教員は子供たち一人一人をより理解し、寄り添いながら、指導や支援を行い、以下の効果を目指しています。

- ① 教員が上記の取組を心に留めて指導を行うことは、子供たちが安心・安全な学校生活を送ることにつながる。
- ② 子供たちは、自分を受け止めてもらえる安心感を生活基盤に、頑張ったことや思いやりのある行動を認めてもらう経験を通して自己肯定感を高める。
- ③ 子供たちは、②の体験により自信をもって自ら発信したり、自己表出や自己選択をしたりすることにつながる。

2月4日から第3回「お互いを大切にするアンケート」を実施し、その結果をもとに、検証を行っていきます。教員自身も振り返りを行い、子供たちにとってより安心・安全な生活の場となるよう、引き続き努めてまいります。

## 一人通学に向けた取組み

主任教諭 新井 知子

小学校低学年では、教員と手をつないで校外外を安全に歩行する。係活動などで教室と目的地を寄り道せず一人で往復する、右側通行で歩行する、などの指導を積み重ねています。これは将来的に一人通学につながる力を、スモールステップで育てているのです。

また小学部高学年からは、電車を利用した校外学習を行っています。公共交通機を利用するマナー（静かに乗る、並んで待つ、座れなくても我慢する）などについて学習します。これもステップの一つです。御家庭でもぜひ、公共交通機関の利用経験を積み重ねていきましょう。小さな一歩が卒業後の進路や余暇活動など社会参加の幅を広げ、生活の質（QOL）を高めることにつながります。

『一人通学』とは、自宅から学校までの間を、スクールバスを利用せず、安全に気を付け徒歩や公共交通機関を利用して児童・生徒が一人で通学することです。

計画に基づき、最終的に、自宅⇄学校間までの完全一人通学を目指して、その都度評価を行いながら指導を行っています。そのためには保護者の皆様方の御協力が欠かせません。

児童・生徒の「生きる力」を育むとともに、将来的な「自立と社会参加」に向けて、保護者と共に連携を図りながら指導を進めてまいります。

中学部卒業後の進路として、高等部の職能開発科や就業技術科などへの進学を希望される場合は、スクールバスを利用しない、一人通学が必須条件となります。一人で移動することができるようになることで、高等部卒業後の進路選択や、余暇活動など社会参加の幅も大きく広がります。

城東特別支援学校では非常勤看護師を募集しております。お知り合いの方がいらっしゃいましたら御紹介下さい。詳しくは本校ホームページを御覧ください。



**【えがお後記】** 一人で登下校する経験は、「自分でできた」という自信につながり、自己肯定感を育てます。自信が育つことで、「困ったこと」「嬉しかったこと」など、自分の気持ちを言葉で伝えようとする自己表現の力も伸びていくと考えます。児童・生徒の周りにいる大人が子供の成長を支え、その可能性を伸ばしていけるよう家庭や地域の皆様と連携しながら、今後も教育を進めてまいります。

副校長 富樫 忠